



やまゆり

学校だより

令和6年2月29日
90号
学校長 杉本賢二

校訓 「和の心」
学校教育目標 「社会に貢献しながら自立する生徒の育成」 一気づき・考え・実行するー
校内研究重点 「個別最適な学びと協働的な学びで、主体的に学習する生徒を育成する」

学校教育目標 「生徒の命を守るための地域連携」

「下校時の見守り活動」に関する会議を行いました

昨日、やまゆりセンターで「令和5年度道志村・小中学校児童生徒登下校時の見守り隊の活動と第3回の会議」を行いました。

小中学生の登下校の安全は、バス通学のための人員や費用、見守り隊の活動や危険箇所を県と連携して改善するなど、多くの方々の努力によって支えられています。

今年は今まで事故ゼロで、あと3月の1ヶ月を残すのみとなりました。しかし、事故はいつどこで起こるか分かりません。児童・生徒自身が自分の身は自分で守ること、家庭や学校での教育、行政の努力等の連携を大事にしながら、今後も交通事故から児童・生徒を守るための活動をお願い致します。

昨日の見守り隊活動の様子

中学校から岩瀬方面へ



教育委員 佐藤さん



会議の様子 事務局



深澤さんの協力体制



教育委員 村田さん



教育委員 加藤さん・山本さん 教育長・見守り隊の中心 佐藤さん



ほろほろ周辺の活動



やまゆりセンター下の駐車場



児童・生徒の登下校の安全を守るために会議で出された主な意見

- 児童・生徒が、「自ら自分の命を守るために危険を予測し、回避できる能力」を家庭や学校で育成することが重要である。
- 登下校のバス通学によって、児童・生徒の登下校の安全が守られている。また、地域の方々の協力も他校・他域と比較すると比較的労力が少なくても良い体制づくりがされている。
- バス通学によって安全が守られている半面、多額の費用や人的措置がとられている。児童・生徒の減少に伴い、バスの大きさや費用の面について検討していくことも必要。
- 各家庭での安全教育や毎日のバス停での見守りなど、できることを一人一人がそれぞれの立場で行う事が今後も大切。
- 中学校では、一人一人の生徒の「ヒヤリ・ハッとした体験」を集め安全教育に生かしていく。また、小学生の指導も出来るように教育していく。
- バスに乗らない徒歩の中学生の交通安全指導も継続が必要である。
- 道志村の交通事情では、「速度違反」の交通環境があることを児童・生徒に教育する。
- お年寄りの運転操作ミスにより、重大な事故が全国で起きている。道志村においても状況は同様であることを認識し、運転者・歩行者がともに注意する必要がある。
- 児童・生徒の保護者が道路に駐車して、児童・生徒の乗降対応をしている姿がある。危険なので注意が必要である。 ※警察からの啓発
- 雪の日に、徒歩の生徒の除雪が間に合っていない状況もある。対策を考えて欲しい。
→教育委員会から産業振興課等に連絡し、通学路の除雪について検討する。
- 国道から、岩瀬地区方面への入口の見通しが悪い。
→第1期工事が終了した。第二期工事は、「岩瀬地区方面への入口に関する工事の予定」であり、4月以降に着工が予定されている。

この会議には、道志小中学校のPTA会長さんも出席して下さっています。

○小学校PTA会長 水越 勉さん ○中学校PTA会長 山本 学さん

見守り隊の活動紹介

①告知端末による交通安全の啓発 ②バスの乗降車指導 ③登下校の見守り活動

第1回 8月30日 第2回 10月27日 第3回 2月26日 各回の活動後 会議

その他の活動

①イベント時の見守り活動 ②通学路の調査 ③危険カ所の確認 ④研修会への参加
上記の活動を年間20回予定し、今年は昨日までに17回の実績

通学路安全点検 通学路安全推進協議会で道路管理者・警察・学校・PTAと連携
今年度は14箇所(point)の点検を実施した。

学校運営協議会 令和6年4月→小中ともにコミュニティ・スクール化
保護者・地域全員が当事者意識をもって協働することが重要

学校教育重点目標 「豊かな心の育成」

ALTの「ジーン先生とのお別れ会」をしました

本日、合同朝の会で英語の指導でお世話になった「ジーン先生とのお別れ会」をしました。メヒア先生の後を引き継ぎ、道志中学校の生徒の英語指導に尽力して下さいました。

生徒が英語に親しみ、学ぶ意欲を高めるために様々な工夫をして下さいました。また、明るく社交的な性格で、短期間に生徒や教職員に溶け込んでいました。

今までのご指導に心より、感謝します。ありがとうございました。

お別れ会では、生徒が主体的に活動し、英語で感謝やお別れの言葉を述べたり、英語の歌を贈ったりしました。また、花束を贈りました。

ジーン先生からは、「本当に素晴らしい生徒たちで、今までのお別れ会の中でも一番心に残る会を贈ってもらった。」ととても感激していました。

お別れ会の様子



英語で感謝の言葉



別れの言葉と花束贈呈



全校生徒で英語の合唱



明るく誠実な心が伝わる歌声でした



ジーン先生から感謝・お別れの言葉



アーチで退場の花道を演出



ジーン先生には、英語だけでなく素晴らしい人間性や国際性を教えていただきました



「公的な別れ・感激していただける会を皆で創り出せた」ことについて考える

私は、人との別れをしっかりとつけれない人は、新しい人との出会いもうまくつけれないのではないかと考えている。

人には人の道がある。

英語が好きか嫌いか。また、その先生が好きかどうかはともかく、英語を指導していただき「お世話になった先生」という事実は厳然とある。その先生に「心を込めて、皆でしっかりと公的な別れ」を創れた。このことは、生徒の皆さんが「心豊かな人間らしい人間」になっていることの証だと思う。

感謝の言葉を告げる・はなむけの言葉を贈る・贈られたことばを頂く、こういう経験を積みながら人は、人間になっていくのである。それぞれの役割分担を責任をもって果たし、その努力に他の生徒もしっかりと応えていた。「出会い、お世話になったことに感謝し、心を尽くし、相手を尊重」する。人としての心・日本人としての心を先生に伝えることができた素晴らしいお別れの会だった。

人間の成長にとって「別れ」はとても重要であり、「別れ」なくして成長はないのかもしれない。

エジプトのクフ王の墓の大発見

余談ではあるが、エジプトのピラミッドのクフ王の墓に入っていた世紀の大発見とは何だったか知っているだろうか。

それは、棺に納められた「草花」だった。送り主は奥さんか、子どもか、家族の非常に近い関係の人物が、亡くなった方との惜別の中で、最後に送ったものだった。

草花の種類で、4000年以上前のピラミッド周辺の環境も分かったようだが、それ以上に大発見だといわれたのは、別れの場面の「人間の感情」が草花から分かった事だった。

4000千年前も今も、愛する人との別れの感情が身分や財産に関係なく全く同じだと分かったことが大発見だったのだ。